

第29回東伏見スポーツサイエンス研究会

日時 2014年12月19日(金) 18:15より

場所 早稲田大学79号館(STEP22)303号室

演題 “エビデンスはいかにスポーツ事故を可視化させるのか”

内田 良先生
(名古屋大学准教授)

私の専門は教育社会学です。研究テーマは、広くいうと「子ども問題」や「家族問題」です。必ずしも、今回の演題である「スポーツ事故」に関心があったわけではありません。とあるきっかけ(詳しくは当日に明かします)から、気がつけばスポーツ科学の世界にどっぷりと浸かっている状況になりました。

本報告では、まず私の研究の過程をたどるところから、今日のスポーツ(科学)を眺めてみたいと思います。スポーツ科学の部外者だからこそ、見えてくること、指摘できることがあるだろうと考えています。そのうえで、ここ数年私が取り組んでいる研究の成果を提示します。その成果とは、エビデンス(事故件数)を用いることで可視化されたものです。各種競技の事故状況、とくに重大事故が起きている柔道やラグビーの事故実態を明らかにします。



早稲田大学 スポーツ科学学術院
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人: 正木宏明・紙上敬太
早稲田大学 スポーツ科学学術院
E-mail: masaki@waseda.jp